

主論文の要旨

Application of indocyanine green (ICG) fluorescence for endoscopic biopsy of intraventricular tumors.

(脳室内腫瘍の内視鏡下生検におけるインドシアニングリーン蛍光法の適用)

東京女子医科大学 脳神経外科学教室

(主任：岡田芳和教授)

都築 俊介

Childs Nerv Syst (2014) 30:723-726 に掲載

【要 旨】

脳室内腫瘍の病理学的診断のため、生検に神経内視鏡の応用が広がっているが、脳室内で神経内視鏡とインドシアニンググリーン (ICG) を併用したという報告はない。本研究では脳室内で ICG を用いて病変を識別し、新たな生検部位の把握法を検討した。脳室内腫瘍により水頭症を来した症例に神経内視鏡下に ICG を投与後、腫瘍自体とその内部の蛍光性の不均等分布、血管系、周囲組織との境界が明瞭に描出されることを確認した。ICG の高輝度部位を生検し、有害事象なく十分量の検体を採取可能であった。確実に腫瘍は採取可能であったが、今後は本法での生検部位が最適か否かの検討が求められた。脳室内腫瘍に対する神経内視鏡下生検術は、ICG を併用する方法で有効性と安全性が高まることが示唆された。